

■倉橋惣三 教育家。東京女高師附属幼稚園主事を長年務め、形式化したフレーベル主義を改革、幼児教育の発展に尽くした。
くらはしそうぞう
新体詩抄・・1882＝ 静岡県鷹匠町の母の実家で、武士の家系の裁判所に務める倉橋政直ととくの長男に生まれる。

帝国憲法発布1889＝ 7歳：岡山市の内山下小学校に入学、
大津事件・・1891＝ 9歳： 大本教・・・1892＝10歳：東京で勉強させたい父の意向で、母と上京し浅草尋常小学校へ転校。仕送りで余裕がなかったという。
日清戦争始・1894＝12歳： 日清戦争終・1895＝13歳：東京府尋常中学校(5年制。後の東京府立一中・日比谷高)に入学、
子規句歌革新1898＝16歳：この年創刊された(児童研究)を、よく分かりもしないのに定期購読していた子ども好きの青年で、
ピ7/国産化・1900＝18歳：卒業。第一高等学校に入学して寮に入ると、暇があれば東京女子高等師範学校附属幼稚園に通って遊び、
日比谷公園・1903＝21歳：卒業。東京帝国大学文学部哲学科に入学し、元良勇次郎教授と出会う。児童心理を研究する目的で、引き続きお茶の水幼稚園に通う。
日露戦争終・1905＝23歳： 満鉄発足・・1906＝24歳： 伊藤博文暗殺1909＝27歳：修了。上野陽一・大槻快尊・菅原教造らと共に「心理学通俗講話会」の設立に参画した。日本幼稚園教会の機関誌(婦人と子ども)(のちの(幼児の教育))にに巻頭詩が掲載される。
韓国併合・・1910＝28歳：*東京女子高等師範学校講師嘱託(児童心理担当)、(フレーベル会)(のちの日本幼稚園教会)に加入、機関誌(婦人と子ども)(後の(幼児と教育))に、小論「子供の想像」が掲載され、幼稚園教育の問題の根本は教育制度と保育法にあるとして、幼児教育界に登場、それぞれ、就学前教育と誘導保育法として練り上げられて行く。青山女学院高等普通科、青山女子手芸学校教師(心理学・教育学担当)になる。
大逆事件判決1911＝29歳：和田實とともに、(婦人と子ども)の編集にあたり、
明治天皇没・1912＝30歳：元良を仲人に、内田トクと結婚(元良はこの年永眠)。論文「フレーベル主義新釈」。(婦人と子ども)編集兼発行者となり、新編集方針発表。(第19回京阪神三市連合保育会総会)にて「幼児保育の新目標」講演。
大正政変・・1913＝31歳：長男正雄誕生。この頃より、「児童保護を」消極的「呼称として退け、「積極的」な児童愛護を提唱、社会問題対策として政府、自治体が取り組むべきであると主張した。
第一次大戦始1914＝32歳：「保育入門」「家庭と幼稚園」、
21ヶ条要求・1915＝33歳：{第22回京阪神連合保育会}にて「幼児教育の特色」講演。
民本主義・・1916＝34歳：次男文雄誕生。青山女学院高等女学部、青山女子手芸部を退職。
ロシア革命・1917＝35歳：東京女子高等師範学校教授に就任し、同附属幼稚園主事となる。
本格政党内閣1918＝36歳：家族主義国家のイデオロギーを打ち出した論文「国家のために」。
ベルリン条約・1919＝37歳：長女直子誕生。(婦人と子ども)を(幼児教育)に改題。「生活か教育か」などの論文で、「幼児教育には家庭教育が原則であり、幼児教育施設はあくまでも補助機関であるとし、
大暴落・・・1920＝38歳：文部省の命で、教育学・心理学研究のため2年の欧米留学、アメリカ各地を回り、
原敬首相暗殺1921＝39歳：ヨーロッパ各国を回って、ペスタロッツ、フレーベルゆかりの地を巡礼。
水平社結成・1922＝40歳：帰国し、元職に復帰するとともに、「創刊された{コモノクニ}の編集顧問になる。
関東大震災・1923＝41歳：関東大震災で東京女子高等師範学校附属幼稚園の前園舎が焼失。
護憲三派圧勝1924＝42歳：東京女子高等師範学校附属高等女学校の主事となる。附属幼稚園主事、(幼児の教育)主幹を退任。
円本時代始・1926＝44歳：幼稚園令施行を受けて、幼稚園が保育所的機能を持つことを積極的に評価し、初めての著書「幼稚園雑草」を出版。その中で、保育方法主義に陥らない保母の資格として、「苦勞に耐えうる」慰勞に満足する「歡喜を第一とする」ことを挙げている。
金融恐慌・・1927＝45歳：東京女子高等師範学校附属高等女学校の主事を退任。
共産党事件・1928＝46歳：天皇皇后両陛下に「児童の心理」をご進講。「幼児の心理と教育」。前年「創刊された{キンダーブック}の編集顧問になる。就学前教育は家庭教育である」と、「家庭と家庭教育」、
世界恐慌・・1929＝47歳：「農繁託児所の経営」、
海軍軍縮条約1930＝48歳：皇后陛下に「幼稚園保育事項」ご進講。東京女子高等師範学校附属幼稚園主事となる(3度目)。
満州事変・・1931＝49歳：「家庭教育総説」など、体系だった理論書を著し、歴史的にみた家庭の現在を、一夫一婦制の単婚家族で、その核に子どもの養育があるという。制度論と方法論を体系的に結び付けた「就学前教育」では、自発的な生活として遊戯を尊重、最後に心もちを挙げ、
五一五事件・1932＝50歳：「家庭教育」において、その特性は「家庭員の純人間的交渉」「家庭生活の現実性」「家庭生活の個性」を挙げているが、母親の役割りを重視しており、結果として女性の社会進出には消極的になってしまっている。
国際連盟脱1933＝51歳：文明の進化の過程で、「生活から教育が分離してきたことに鑑み、日本幼稚園協会主催の幼児教育夏期講習会にて、初めて全国の幼稚園の先生らに「保育法」を講義し、「誘導保育」という思想を提示した。保育においては「製作」こそ重要であるとし、幼児教育の中核になる誘導保育法について、生活こそすべてと講演し、
帝人疑獄事件1934＝52歳：天皇、皇后両陛下に「児童教育問題」をご進講(以後3年毎年)。新庄よしこと共著で「日本幼稚園史」。「幼稚園保育法真諦」として出版、そのダイナミズムは、それまでには、見られないものであり、幼稚園の先生は、子供の後ろにいて目立たないものでなければならないとする。
芥川直木賞始1935＝53歳：玩具叢書 玩具教育篇」。付属幼稚園編「系統的保育案の実際」において、誘導保育法を具体化。
二二六事件・1936＝54歳：「農繁期託児所の手引」、文部省家庭教育叢書「家庭教育の本質と指導の要諦」、「育ての心」出版。
日中戦争始・1937＝55歳：文部省社会教育局児童生徒校外生活指導叢書「遊戯の価値とその指導」、中央融和事業協会融和問題叢書「融和問題と教育」、
健保+総動員 1938＝56歳：葉山御用邸、赤坂の東宮仮御所へ出仕、皇太子明仁親王の遊び相手となる。
第二次大戦始1939＝57歳：岩波大教育家文庫「フレーベル」。論文「日本の幼稚園」には、国家主義的、家族主義的傾向がみられる。
日米開戦・・1941＝59歳：
・・・・・1942＝60歳：「家庭教育と学校教育」では、日本の家族主義イデオロギーに組してしまう。
敗戦・・・・1945＝63歳：長女直子の住む姫路へ疎開。東京都の「幼稚園閉鎖令」により東京女子高等師範学校附属幼稚園閉鎖。敗戦とともに帰京。保育再開のため奔走し、焼け跡の子どもたちのために、臨時の「御近所幼稚園」を開く。
新憲法公布・1946＝64歳：アメリカ合衆国教育使節団来訪、日本側委員として接待にあたる。「新版 育ての心」。(幼児の教育)に寄稿した「幼児保護と幼児教育」で、「幼保一元化構想を提示、
新憲法施行・1947＝65歳：第1回全国保育大会が開催され、全国保育連合会結成される。幼児教育内容調査委員会委員長を務め、保育要領の作成に着手。
新憲法公布・1948＝66歳：「幼稚園雑草」を再出版、「若き公民」。日本保育学会を創設。「保育要領」刊行、今日の「幼稚園教育要領」の原型となる。現在も活動が続く{日本保育学会}を創設、初代会長になる。
三大事件・・1949＝67歳：体調を崩し、難聴で通院治療。お茶の水女子大学教授兼お茶の水女子大学東京女子高等師範学校教授になるも、依願退官。教職生活39年であった。(幼児の教育)の編集主幹は没するまで継続、
朝鮮戦争始・1950＝68歳：老体に鞭打って全国を講演して回る。
独立回復・・1951＝69歳：
TV放送始・1953＝71歳：「幼稚園保育法真諦」を改題復刻、さながらの生活を起点においた「幼稚園真諦」、
自衛隊発足 1954＝72歳：「子供讃歌」出版。病状悪化し、翌年1月号の(幼児の教育)巻頭言が絶筆となる。
55年体制始・1955＝73歳：日本保育学会会長、(幼児の教育)編集主幹、(キンダーブック)の編集顧問をそれぞれ後進に譲り、「フレーベルの誕生日に、脳血栓で、没した。
恩物中心のフレーベル主義を批判し、児童中心の自然の中で行う保育を生涯に渡って強調した。墓所(多磨霊園)の句碑には、「自ら育つものを育てようとする心、それが育ての心である、世の中にこんな楽しい心があろうか」と刻まれている。

Wikipedia「倉橋惣三」、ホームページ「倉橋惣三について」、諏訪義英「(普及版)日本の幼児教育思想と倉橋惣三」、